

市長定例記者会見（令和5年5月12日）録

11時30分～11時50分

題材に入ります前に、今週、5月8日（月）に、新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが、2類相当から5類へ移行されましたので、これに当たり、一言申しあげたいと存じます。

この5類へ移行によりまして新型コロナウイルス感染症への対応は、有事から平時への移行に向けた、最も大きな節目を迎えたといえようかと思っております。

市民の皆様や事業者の皆様には、これまでワクチン接種や、基本的な感染対策、外出自粛などの要請など、様々な取り組みに対する御理解と御協力をいただいたところであり、その御協力の対しまして感謝申しあげたいと存じます。

とりわけ、医療従事者の皆様には、患者の方々への対応はもちろんですが、ワクチン接種など、コロナとの戦いの最前線で行われたような日々でございました。これらにつきまして、多大なるご尽力いただきましたことに対しまして、深く感謝申し上げます。

まず、コロナでございますけれども、国内で初めて感染者が確認されてから、3年を超える闘いとなったわけでございます。今回の感染症法上の位置づけの変更によりまして、一応一区切りがつく、ということになります。この間、私としては、高松市医師会等、多くの方々の御理解と御協力をいただきながら、例えばPCR検査センターの独自設置、あるいは夜間の発熱外来の開設、また、日々の入院調整等々で、適切な医療体制を確立しながら、その支援を行うといったことで、市民の皆様の命と健康を守ることを第一に取り組んできたところでございます。

今後の感染対策ということになりますと、5類に移行するということで、国や地方自治体による、様々な一律の行動制限が無くなりまして、療養や感染防止のあり方といったものは、それぞれ個人や事業者の判断に委ねられるということになるわけでございます。

ただし当然のことでございますけれども、感染症法上の位置づけが変わったからといって、ウイルスが無くなった訳でも、性格が変わったわけでもございませ

ん。相変わらずコロナウイルスにつきましては、感染力が非常に強くて、一度波ができる就非常急激に感染が拡大するという傾向があるようでもございますし、また重症化リスクが非常に高いウイルスだと言われております。さらには、無症状の方でも後日、後遺症が出て、非常に困っている方がおられるといったような性質もございますので、安心できるものではないということもございますので、それぞれの御自分の判断ということにはなりますけれども、高齢者などの重症化リスクの高い方を守るためにも、それぞれ皆様方状況に応じて感染対策をしっかりと講じていただくように私からもあえてお願いしておきたいと思っております。

それでは、題材に入らせていただきます。

スライドを見てまいりたいと思っておりますが、今日は、「高松市歴史資料館古写真収集事業の開始について」の1件でございます。

高松市歴史資料館でございますけれども、写真を集めまして、それに残る人々の暮らしぶりや、街の様子などを後世に伝えていくために、明治から昭和にかけて市内各所で撮影された古い写真を収集する事業を、5月1日から、香川大学イノベーションデザイン研究所と連携して開始いたしました。

今回収集する分野、写真は、「高松市域の商店街」をテーマにしております。高松市を代表する各商店街の移り変わりや、市民の暮らしぶりを知ることができる、重要な資料として集めてまいりたいと思っております。

市民の皆さんに提供いただいて収集した写真は、市民の皆様が、高松市の歴史を、思い出と重ねて楽しんでいただけるように、歴史資料館の展覧会等での展示を始め、広報高松や、ホームページ、市公式SNSを使って、本市の歴史・文化を広く発信するというような活用方法を考えているところでございます。

また提供いただいた写真につきましては、デジタル画像に処理した後、お返しいたします。写真の提供方法など、詳しくは、資料のとおりでございます。

第1弾は商店街ということですが、第2弾として、「晴れの日」というものを予定しております。いわば「祝い事などを行う日」の写真を第2弾として募集をするということもございますので、また後日募集時期等が決まりましたらお知らせをしたいと思います。

これら写真を通して、多くの市民の皆様へ、ふるさとである高松への想いや、

地域の絆を再認識していただくとともに、高松の歴史を未来へ継承し、市民のシビックプライドの醸成につなげてまいりたいと考えております。ぜひとも、多くの市民の皆さまの御協力をお願いしたいと思います。

【記者質問】

【記者】

新型コロナウイルス感染症が5類に移行したが、今後の市の感染対策は

【市長】

冒頭でも申しあげましたが、わが国でコロナ感染症が発生をして、約3年間にわたって色んな未知なる敵、ウイルスであるコロナとの戦いが続いてまいりました。

本市におきましても、約11万人の感染者数が確認されております。しかもこれまで8回ほど、第8波とありますが、第8波での大きな波というものがございまして、感染者数の増加がございまして、やっと今回5月8日に、5類に移行し、これからはウィズコロナの本格化ということで、経済の活性化が期待される新たな日常が始まったということで、期待をしています。

今回からあえて感染症への対策は、個人や事業者の判断に委ねられるということでございます。ただこれにつきましては、ウイルスがなくなったり、性格が変わったわけではありませんので、ぜひとも皆様方これまで同様状況に応じて感染対策をしっかり取っていただくように、お願いしたいと思います。安心していきますと、感染者がどんどん増えていく、とか、あるいは重症化リスクの高い高齢者が感染し亡くなる場合もあるということで、その辺を認識いただいた上で、この後うまく付き合いながら、経済社会の維持発展に繋げていきたい、そういうことが大事かなと思っております。

市としてこれまでやっていない特別なことをやるということは考えておりませんが、通常の疾病と同じような保険の扱いになるということで、その辺の取り扱い等について市民の皆さまに十分理解いただくように、広報・周知をしっかりとやっていきたいと思っておりますし、引き続きワクチンにつきましては、

高齢者と重症化リスクの高い方を対象にいたしまして、今年度は春と秋と2回の接種を推奨するという事でやっていく、それでワクチンについては無料でやっていくということも出されておりますので、その辺の制度の在り方、制度の仕組み等について、きちっと市民の皆さまに的確に伝わるように広報等に力をいれてまいりたいと考えております。

【記者】

【新型コロナウイルス感染症の5類移行】

医療現場などで混乱はないのか

【市長】

特に大きなトラブルと申しますか、混乱があるということは聞いておりません。

市民の皆さまは医療機関の方で混乱が生じることのないよう、幅広い医療機関に新たな5類になったコロナについても対応していただけるように、県や市の医師会等、関係機関と連携を図りながら丁寧にいろんな機関に働きかけを行っていきたいと思っております。5類になった後でも、新型コロナウイルス感染症が的確に取り扱いをして、大きな混乱、感染の爆発が起こらないように十分注意をしながら体制づくり等を行ってまいりたいと思っております。

【記者】

【新型コロナウイルス感染症の5類移行】

発熱患者等の受け入れに慎重な医療機関もあるようだが、その状況は

【市長】

個別につぶさに調べてはいたしません、建物の医療機関の構造上、発熱外来を設けられないといった、構造上難しいというお話も聞いてはいます。ただ、そういうことについて、個別の状況に応じてできるだけ工夫をして受け入れていただくようお願いをしていただくということをやっておりますが、どうしてもリスクがあって難しいということになれば、そこは仕方がないというものもあるかなと思

っております。ただその辺は丁寧にこれから説明会等において、できるだけ多くの医療機関が一般的に取り扱っていただくように、そういうふうに仕向けてまいりたいと考えております。

【記者】

県は10月までに発熱患者の診療を受け入れる医療機関を600とする方針だが、市の目標は

【市長】

県の数字等も参考にしながら、目標値としてはまだ定めておりませんが、相当の医療機関に対応していただけるようお願いをしていきたいと思っております。

【記者】

G7香川・高松都市大臣会合への期待感は

【市長】

今日からバックのパネルもG7仕様が変わっておりますけれども、いよいよ来週広島でG7サミットが開かれると、また関連閣僚会議としてG7の都市大臣会合が7月7日から9日にかけて高松市で開催をされるということですので、それに合わせてG7会合の高松市の魅力を内外に発信していきたいと思っておりますし、関連イベントなんかも行いながら、関連するテーマの問題について市民の皆さまにより理解を深めていただけるように、そういう努力を県と連携しながらやっていきたいと思っております。

また、雰囲気盛り上げるために、市の各種行事で関連がありそうな行事についてはG7都市大臣会合関連といった形で冠イベントとして実施をし雰囲気盛り上げようと考えておりますし、先ほど言いましたように、県と事務局の方でG7の都市大臣会合の直接の関連イベントもこれから実施をされるということですので、発信をどんどんしていきながら、雰囲気盛り上げていって、市民の関心を盛り上げていくとともに内外の人達が高松市ってこういうところなんだと、あるいはそこだけの重要なテーマを持った都市大臣会合という大きな国際会議が開

催をされるだけの能力を持った都市なんだということをアピールしていきたいと考えています。

【記者】

G7香川・高松都市大臣会合の開催にあたり、市のどのようなところをアピールしていくのか

【市長】

直接的にはこれだけ大きな国際会議が行える国際会議場を始めとした諸機能をもった施設が存在しているということが大きいと思っておりますし、7年前の伊勢志摩G7サミットの時の情報通信大臣会合を高松で行い、成功させたという実績もございますので、それらを踏まえた上で今回都市大臣会合についても高松ということにさせていただいたと思っております。

前回と今回で2回連続で選ばれている都市はそうたくさんございませんし、比較的政令指定都市などの大きい都市がほとんどでございます。四国の中では唯一高松が選ばれているということなので、四国の中での中枢管理機能を持った大きな組織を備えた都市であるというのを内外にアピールしていきたいと思っております。

【記者】

子育て世帯生活支援特別給付金の支給に対する市長の考えと、独自対策は考えているのか

【市長】

低所得の子育て家庭に対する給付金として、全国一律の5万円の給付のもの、地方団体の工夫で給付できるような給付金と2種類あるかと思っております。全国一律の給付金については先に専決処分等を行いまして、給付事務を進めているところでございます。それは低所得者世帯に対する物価高等の影響を緩和するための子育て支援のための給付金ということでございますので、できるだけ早く給付できるように事務を進めてまいりたいと思っております。

あと地方団体で給付できるほうの給付金につきましては、今後内容等を十分検討しながら、今の子育て家庭が真に必要としている事業内容等を考慮して、考えた上で、それを今後補正予算にかけていながら議会の議決を得た上で予算化して実行にうつしていきたいと思っております。内容については今検討中でございます。これにつきましても、できるだけ早く実施ができるように色んな方策を考えてまいりたいと思っております。